

西部労福協第49回定期総会開催される



定期総会全景

西部労福協は、第49回定期総会を2019年2月21日（木）、徳島市「徳島グランヴィリオホテル」において開催しました。総会冒頭、議長に兼松文子代議員（徳島県労福協常務理事）を選出しました。

総会は、中央労福協花井圭子事務局長、徳島県商工労働観光部田中稔副部長、徳島市遠藤彰良市長、連合徳島森本佳広会長をはじめ徳島県労福協川越敏良会長等8人の来賓、西部労福協役員、各県代議員、傍聴者等総勢73人が参加しました。

西部労福協成相善朗会長（島根県労福協理事）は主催者を代表し、「この一年間、中四国地方は大きな自然災害に見舞われ、たくさんの方が亡くなり被害に遭われた。謹んでご冥福とお見舞い申しあげたい。自然災害への備えは常にしておかねばならないし、労金、全労済の福祉事業団体の役割は重要であり、取り組みの強化も必要である。児童虐待や毎月勤労統計の問題について、人員を含む行政の体制、体質の問題が浮き彫りになっている。働き方改革について、同一労働同一賃金の取り扱いが重要であり、均等（雇用の形態にかかわらず待遇を同じにする、差別的取り扱いを禁止する）と均衡（雇用形態によってバランスをとっていく、極端な差がなければ良しとする）の違いを

議長 兼松文子代議員
(徳島県労福協常務理事)西部労福協 成相会長
(島根県労福協理事)

認識し、均等な待遇を求めていかねばならない。また、その法案も十分な制度設計がないまま、司法が先行して判断をし、法律の中身を司法が作っていくような本末転倒の事態が生じ、司法判断が分かれた場合にどうするかという問題もある。最後に、私たち労福協は2020年ビジョンを基本的に活動を進めてきたが、今年は中央労福協結成70周年であり、検証見直しとともに新たなビジョンづくりに向けて、各県労福協での議論をお願いしたい。」と挨拶を述べました。

その後、来賓の方より「労働者福祉事業への賛辞と徳島市来訪への歓迎」の祝辞が続きました。中央労福協花井事務局長は、「中央労福協は今年結成70周年を迎えるにあたり、2020年ビジョンの検証と新ビジョンの作成に向けた議論をお願いしたい。この先10年、どのような理念のもとどのような社会を目指して運動をどのように進めていくのか、このことを労福協全体で確認し合う、結束を固め合うものがビジョンであると考えている。昨年の全国福祉強化キャンペーンでは、奨学金に関するアンケート調査と全国一斉相談会について全国の多くの労福協でご尽力いただいた。アンケート調査は、3年前の調査回答を大きく上回る1万6千を超える回答を集約でき、高等教育の無償化に関する法律の今国会での審議に間に合うよう分析作業を進めている。奨学金の借換えについて、全国の労金と労福協が連携し借換の取り組みが展開されており、労働者自主福祉運動の一環と捉え今後とも取り組みを進めていきたい。」「少子高齢化の中、若者の多くは不安定雇用・長時間労働を強いられるなど格差・貧困・社会的分断が進んでおり、社会保障に対する将来不安が高まっている。統計不正の問題は、失業給付等だけでなく公的年金の給付についても遡求する懸念がある。たくさんの課題がある中、一向に改善されないのは行政、国会が機能不全に陥っているからである。



中央労福協 花井事務局長

私たち労福協が掲げる共助の拡大、福祉は一つ、助け合い・支え合いの価値が今まで以上に重要になっており、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会、SDGsの目指す誰一人取り残されない社会を築きあげていくためにも、結束して労働者福祉運動をさらに広め、強めていかなくてはならない。本日の定期総会では、議長、代議員に女性を選出いただいていることに感謝したい。」と祝辞を述べました。

【総会次第】

第1号議案	2018年度活動報告
第2号議案	2018年度決算報告・会計監査報告
第3号議案	2019年度活動方針（案）
第4号議案	2019年度予算（案）
第5号議案	役員の一部交代について

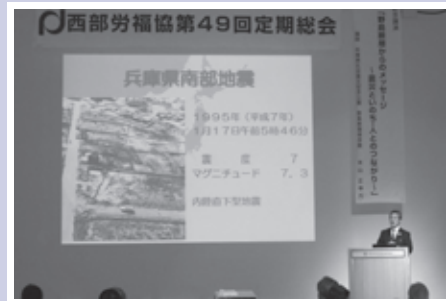
総会は、すべての議案を西部労福協福岡事務局長が報告、提案し、全会一致で承認可決されました。その後、下記の記念講演を行いました。

【記念講演】 演題 「野島断層からのメッセージ ～震災といのち・人とのつながり～」

講師：兵庫県北淡震災記念公園 米山 正幸（こめやま まさゆき）氏



米山 正幸 講師



【講師紹介】

1995年1月17日北淡町（現淡路市）富島にて阪神・淡路大震災で被災。当時29歳。妻と2か月の長女と共に生活する中で、地震の恐ろしさを体験する。震災直後から、富島消防団員として救助活動や救援物資の配布などに活躍。2000年2月から、北淡震災記念公園勤務。現在支配人。語り部として自らの体験、当時の北淡町の様子や教訓を語り、阪神・淡路大震災以降の自然災害からの教訓を交え、地域のコミュニケーション、命、地震に備えることの大切さを伝えています。

全国で地震に備えることの大切さを伝えるために出張講演や防災関係のシンポジウム等にパネラーや講演者として、数多く登壇、新聞・テレビ等のマスメディアにも度々取り上げられています。

【講演内容要旨】

当時の地震発生の様子から直後の悲惨な生々しい状況、消防団員として救助作業、避難所設置と避難生活支援、救援物資の管理・配送など多忙を極めた日常活動の話がありました。戦時中に神戸大空襲に遭われ、阪神・淡路大震災をも経験された語り部のご老人が、「空襲は、あらかじめ身構えることができるが、地震は前触れなく襲ってくる。そのことから地震の方がはるかに恐ろしい」とおっしゃっていたことを思い出しました。

旧北淡町では、人口の一角が消防団員として活動し、震災当日の夕方には行方不明者0を成し遂

げました。約300名が生き埋めになりましたが、当日のお昼過ぎには全員救出できました。近所の人は誰がどの部屋で寝ているかまで知っていたことが大いに役立ちました。プライバシーよりも命が大切。隣近所とのコミュニケーションを密にし、できれば名簿を作成しておくことと避難時には、怪我をしないように足を守ることを話されました。

防災はできないが、減災はできる。そのためには、①住宅の耐震性強化②家具の転倒防止③水の備え（家屋の倒壊を想定して何か所かに分散配置）④避難場所を家族で決める⑤電灯の落下防止⑥窓ガラスの飛散防止⑦スリッパ（足を守る）・笛（生き埋め時に在処を知らせる）・懐中電灯の準備⑧災害用伝言ダイヤル（117）の周知⑨自然災害・地震保険・共済の契約等が必要であり、「備えよ常に」を念頭に、できることから準備しておく必要があります。また、災害時には、一つの想定に縛られることなく、その状況下で最善の避難行動をとること。東日本大震災では、避難せず逃げ遅れた人が多かったことを教訓に、「必死で逃げる姿が」周囲の最大の警告となることから「率先避難者たれ」と力説されました。

「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」ためにも日頃の備えをしておくことの重要性を参加者全員が胸に刻みました。

報告 松本 敏和（島根県労福協）

福祉事業団体利用拡大キャンペーンの 「各地区労福協の取り組み目標に対する結果」報告

各地区労福協の取り組み結果は、下記のとおりとなりました。各地区労福協の皆さんには、キャンペーン成功に向けてご尽力いただきありがとうございました。地区労福協・労金部会ならびに労済部会と労金営業店・全労済支所との間で、各地区労福協の年度末目標達成に向けて、現況把握と今後の取り組みについて意思統一をお願いします。

福祉事業団体利用拡大キャンペーン(2018年10月～12月)取り組み目標と実績

地区名 推進項目	松江	隠岐	安来	雲南	出雲	大田	江津	邑智	浜田	益田	合計
中国労金 有担保 ローン借換え件数目標	13	2	3	1	7	3	1	1	3	2	36
〳12月末実績	9	0	2	0	8	2	1	0	3	0	25
中国労金 無担保 ローン借換え件数目標	80	8	25	12	30	10	7	5	25	10	212
〳12月末実績	35	0	13	15	16	5	1	0	8	6	99
中国労金 会員への 提案活動件数目標	54	10	2	6	34	10	5	3	20	2	146
〳12月末実績	41	10	0	4	33	6	6	7	26	2	135
全労済 こくみん共済 説明会実施回数目標	27	2	4	4	6	4	5	2	10	13	77
〳12月末実績	15	1	4	5	6	4	2	2	10	15	64

フードバンクしまね「あったか元気便」の正式発足に向けて

鳥根県労福協が、ネットワーク参加しているフードバンクしまね「あったか元気便」では、昨年夏休み中の2回に引き続き、冬休み中に1回の食品提供を松江市内の1小学校区内の家庭(28世帯99人)へヤマト運輸労組の協力を得ながら行いました。試行的な取り組みとして始めた合計3回(のべ84世帯、291人)のフードバンクを通じて総量1トンを超える食品を届けることができ、利用者の方々から多くの感謝の言葉をいただきました。また、3月には、JAしまね地域貢献・地域活性化事業支援金交付団体として支援金をいただきました。今後は、松江市内の1中学校からフードバンク利用の要望もあり、今年の夏休みから対象校区を増やすとともに、フードバンク活動の本格稼働に向けて、準備会から正式組織発足に向けた取り組みを行っています。しかし、認知度、金銭面、組織面とも脆弱であることから、加盟団体、事業団体の金銭面でのご支援と松江地区労福協の活動参加に期待しています。



中国ろうきん鳥根県推進代表者集会を開催

2月15日(金)、ホテル白鳥(松江市)において会員・役職員56名が参加して県推進委員会主催の「2018年度中国ろうきん鳥根県推進代表者集会」が開催されました。



冒頭、門脇推進委員長が、「今回は、<家計の見直し運動の取り組みの定着に向けて>をテーマに集会を開催させていただく。集会が各地区の推進機構のさらなる活性化につながるよう有意義な集会としていきたい。」と挨拶されました。続いて岩田本部長が「集会が有意義なものとなり、各地区で支え合う基盤づくりの輪が広がることを願っています」と挨拶を行いました。

基調講演は、ろうきん運動推進アドバイザー代表幹事景山 誠氏(連合鳥根副事務局長)が講師

となって「ろうきん運動の推進と活性化」と題して行われました。講演ではろうきんのあり方や会員推進機構の役割、鳥根県での取り組みなどが軽快で聞きやすくわかりやすく話され、参加者のみなさんの納得度もととも高いものとなりました。

主な講演内容

1. ろうきんの誕生
2. ろうきんの理念
3. ろうきんと推進機構の取組み
(NPO寄付システム、ろうきん運動推進アドバイザー)
4. 労働者自主福祉運動としての課題
5. ろうきん運動の重要性

続いて各店・地区のろうきん運動推進アドバイザーによる実践活動報告が行われ、今年度の3つの統一取組み<①担当職員紹介ボードの設置②朝礼・終礼への参加③研修会の実施>の状況や今後の進め方などについて、8地区からそれぞれ発表

が行われました。初年度でもあり各地区での取組みには濃淡がありますが、参考になる取組み、課題などを全県で共有して、各店・地区での今後のろうきん運動の推進と活性化にきちんとつなげていくことを改めて確認しました。

力石副推進委員長により“集会のまとめ”として「ろうきん運動の重要性」などが述べられた後閉会し、交流会を行いました。

集会受到して各地区会員・推進機構・推進アドバイザーが、ろうきん各店としっかりと連携して取組みを確実に進めていき、各店・地区のろうきん運動のさらなる活性化につなげていきたいと考えています。

みなさんのご理解とご協力を引き続きよろしくお願いします。

島根県各店・地区ろうきん運動推進アドバイザー名簿

店・地区	名 前	会 員 名
松 江	門脇 伸介	松江市職員ユニオン
	中村 慎也	中電ユニオン島根原子力支部
安 来	亀瀧 真人	安来市職員労働組合
雲 南	多久和礼人	パナソニックESソーラーシステム製造労働組合
出 雲	高橋 良介	JMS労働組合
	日野 真悟	出雲市職員連合労組
大 田	岩野 剛	帝人コードレ労働組合
江 津	清重 勝也	日本製紙労働組合江津支部
浜 田	力石 雅之	浜田市職員労働組合
益 田	堀 達也	ダイワボウ労働組合益田支部

※敬称略



ZENROSAI NEWS

こくみん共済 商品説明会 開催報告

島根県労働者福祉協議会2018「福祉強化月間：福祉事業団体利用拡大キャンペーン」（10月～12月）において、「こくみん共済商品説明会」の開催に取り組んでいただきました。執行委員会、定期大会、職場集会、新入組合員集会等において64回の開催をいただき、1,348名の組合員の方々に「こくみん共済」の商品内容を広めることができました。

同時期に実施の「全労済2018年度こくみん共済推進キャンペーン」では、当初のキャンペーン期間（10月～12月）から更に1ヶ月延長し1月末まで取り組んでいただいた結果、目標335件に対し新規325件のご加入をいただき、達成率は97.0%となりました。

この間の皆さまの多大なるご支援に感謝申し上げますとともに、年度末（5月末）に向け年間目標達成への引き続きのご支援をお願い申し上げます。

○「こくみん共済」商品説明会開催結果

	開催回数	参加者数	加入件数
安来地区	4件	120名	27件
松江地区	15件	222名	127件
雲南地区	5件	147名	15件
出雲地区	6件	158名	53件
大田地区	4件	175名	18件
邑智地区	2件	14名	8件
江津地区	2件	26名	11件
浜田地区	10件	164名	42件
益田地区	15件	312名	20件
隠岐地区	1件	10名	4件
合 計	64件	1,348名	325件



全労済島根推進本部
（島根県労働者共済生活共同組合）